

台灣職業人に見られる誤用分析 — 「ニ」と「ヲ」の誤用を中心に—

林 綺 雲

摘 要

在台灣以中文為母語之某社團人士所說所寫之日語常犯的錯誤歸納起來似乎有一些共同的模式。

本稿係蒐集這些誤用詞句特別是就日語的格助詞「ニ」和「ヲ」的誤用，加以整理分析、歸納成下列七項，並探討造成此種錯誤的原因和背景進而指出改進之方法俾對日語教學有所助益。

1. 「～O + 自動詞」型之錯誤模式
2. 「～Ni+他動詞」型之錯誤模式
3. 「～Ni/O+勉強になる」型之錯誤模式
4. 「～Ni/O+頑張る」型之錯誤模式
5. 「～O + 参加する」型之錯誤模式
6. 「～Ni/O+形容詞」型之錯誤模式
7. 「～Ni/O+感動詞」型之錯誤模式

I. はじめに

台湾にいる中国語話者の職業人が話す、書く日本語には共通した誤用が見られる。ここでは、外国語である日本語を組織（以下T組織と呼ぶ）の中で公用語として使用している人たちの使う日本語の誤用例を格助詞に限定して収集し、その間違いの共通の特徴や傾向を分析し考察した。

T組織¹に属しているメンバーは、日本商社などで仕事を通して日本語を身につけた人（A）、日本で勉強した元留学生（B）、日本領台時代日本語を母語とした日本語に堪能な人（C）、国内で大学の日本語学科を卒業したが留学体験のない人や、身内や親戚から断片的に日本語を耳から覚えた人（D）など、様々な学習歴のある日本語使用者である。しかし、学習歴が違っていても下記のような誤用例²からわかるように、「ニ」や「ヲ」に関して共通の間違いが見られる。

- ①〇〇先生のご講演を聞いて、改めてこの制度の欠点をわかりました。
- ②ゲストの皆様に歓迎いたします。
- ③〇〇さんの教えで香料のことをもっと了解になりました。
- ④〇〇先生のスピーチに勉強になりました。
- ⑤10月12日のゴルフ同好会を初めて参加して、楽しかったです。
- ⑥久しぶりに皆様をお会いできて本当に嬉しいです。
- ⑦〇〇さんの台北での画展を成功するようにお祈り申し上げます。
- ⑧今年の立法委員台北南区の選挙を頑張ってください。
- ⑨来週の出席率100%に頑張りましょう。

¹ この組織は、各業界の実業家が集まった親睦団体のことである。本稿で考察の対象とした誤用例はこの団体の“WEEKLY REPORT”に掲載されたものから引用した。

² 誤用例①～⑤では、下線と点線は誤用箇所であり、また、下線と点線以外の部分の誤用箇所は本稿で取り上げる格助詞「ニ」と「ヲ」の使用と無関係であるので訂正してある。

- ⑩京都の友達の〇〇さんのご来社を楽しかった。
- ⑪7-eleven³の店は1000店を達成したことに嬉しいです。
- ⑫〇〇さん、結婚25周年記念をおめでとうございます。
- ⑬〇〇さん、ゴルフの優勝におめでとう。
- ⑭〇〇さんの立派なご講演をありがとうございました。
- ⑮〇〇教授のすばらしいスピーチにありがとうございます。

本稿の目的は、こうした誤りを類型化し、その共通の原因、あるいはその誤りを導き出す背景を明らかにすることにある。それによって、間違いを犯さないための対策を見出し、今後の教学の参考に供したい。

Ⅱ. 格助詞「ニ」と「ヲ」の誤用の類型とその分析

格助詞は、助詞の一つで、主に体言に後接し文末の動詞・形容詞などの述語とかかわって種々な事柄を表す文を構成する。「新学期が始まった」「そろそろ会議を始めよう」「今朝六時に起きた」「タクシーで行く」「恵子と結婚する」「高雄へ向かう」「朝十時から営業している」「春の季節の到来」「第五章まで読んだ」などの語がこれに当たる。格助詞の数はそれほど多くはないが、それぞれの用法は多様で中国人学習者を悩ませることが多々ある。前述したように、集めた文例を分析してみると、助詞のとり方では、格助詞「ニ」と「ヲ」の使用に関するものが際立って多い。間違った「ニ」と「ヲ」の使われ方は次の七つの誤用類型にまとめることができる。

1. 「Nヲ+自動詞」型
2. 「Nニ+他動詞」型

³ ここでいう「7-eleven」はコンビニエンス・ストアの名称であると同時に、T組織に属しているメンバーの一人のニックネームでもある。

3. 「Nニ／ヲ＋勉強になる」型
4. 「Nニ／ヲ＋頑張る」型
5. 「Nヲ＋参加する／感謝するなど」型
6. 「Nニ／ヲ＋形容詞」型
7. 「Nニ／ヲ＋感動詞」型⁴

II-1 自動詞の助詞のとり方の誤用—「ヲ」→「ガ」

これは、自動詞を他動詞と見なして「ガ」を使用すべきところに「ヲ」を用いる場合である。

次に誤用例を示す。()内は筆者による訂正部分である。例文の文末のA、B、C、Dは「I.はじめに」で日本語使用者の学習歴の違いに応じて分類したものである。

- ①○○先生のご講演を聞いて、改めてこの制度の欠点をわかりました。D
- ②三つの夢をかなうように奉仕しましょう。B
- ③○○さんの台北での画展を成功するようにお祈り申し上げます。A
- ④○○さんの教で香料のことをもっと了解になりました。A
.....
(がもっとわかるようになりました)
- ⑤○○さん、風邪を早く回復するように祈ります。B

日本語学習者にとって、自動詞と他動詞の使い分けが難しいとよく言われる。台湾にいる中国語話者もその例外ではない。日本語では、動詞は「始まる—始める」や「残る—残す」などのように異なった形態で自動詞と他動詞が対応したり、「花がひらく」、「門をひらく」の「ひらく」や、「人口が増す」、「給料を増す」の「増す」などのように、同じ形態で

⁴この部分は、筆者が1996年5月25日に政治大学主催「中華民國第一屆全國第二外語教學研討會」で口頭発表した『台湾における中国語話者が使う日本語の間違い』の「1.感動詞を動詞と間違えて「ニ」や「ヲ」を伴って用いる」を加筆したものである。

自動詞と他動詞が対応するものもある。もちろん、自動詞と他動詞が対応しないものもある。さらに、「山を越える」、「山を越す」のように、形態的には自動詞と他動詞の対応を示すが、意味的、構文的には自・他の対応を示さず、両方とも自動詞とされるものもあって、その用法は多岐にわたる。そのためか、学習者はなかなか使い分けられないというのが現状である。

文例①～⑤は、いずれも自動詞を他動詞と間違えて「ガ」を使用すべきところに「ヲ」を用いてしまったために生じた誤用である。②の「かなう」には対応する他動詞「かなえる」があるが、①の「わかる」、③の「成功する」、⑤の「回復する」には自・他の対応がないため、間違いを起こしやすかったのだろう。④の「了解」は、「了解を得る」とか「相手の立場を了解する」というように「名詞」か「サ変他動詞」として使われ、「了解になる」という表現はない。敢えて使うとしても、「なる」は自動詞であるから、「ヲ」ではなくて「ガ」か「ハ」を用いるべきだろう。しかし、やはり「……のことがもっとわかるようになりました」或いは「……のことをもっと理解するようになりました」と表現したいところである。「香料のことをもっと了解になりました」という表現は、中国語の「更了解了香料的事」の直訳であろう。これでは格助詞のとり方は間違っているし、「もっと了解になりました」という表現は日本語ではない。

II-2 他動詞の助詞のとり方の誤用—「ニ」→「ヲ」

これは、述語は他動詞であるのに「ヲ」を使用すべきところに「ニ」を用いる場合である。

次に誤用例を示す。〔 〕内は筆者による補足部分である。

- ①ゲストの皆様に歓迎いたします。A
- ②〇〇さんに応援します。A
- ③〇〇社の授証に祝って〔2000元寄付いたしました〕。B
- ④来週の加盟式成功にお祈りします。B

①の「歓迎する」、②の「応援する」、③の「祝う」、④の「祈る」はともに他動詞であり、「ヲ」を使用すべきところに「ニ」を用いてしまったものである。この四つの動詞には自・他の対応がなく、また、スル動詞は自動詞も他動詞もあり得る⁵ので、助詞の選択は学習者にとって比較的困難なものとなろう。しかし、決まって「ニ」をとっていることに注目したい。なぜか、格助詞「ヲ」と同様に格助詞「ニ」を多用する傾向があるのである。格助詞「ニ」と「ヲ」の多用傾向は、台湾の中国語話者が使う日本語の間違いの共通した特徴であるように思われる。

II-3 「Nガ／ハ＋勉強になる」の誤用－「Nニ／ヲ」→「Nガ／ハ」

これは、「Nガ／ハ＋勉強になる」であるべきところの「ガ／ハ」を間違えて「ニ／ヲ」を用いた場合である。

次は誤用例である。

①〇〇先生の書道のご講演によく勉強になりました。A

(よい)

②〇〇先生のスピーチに勉強になりました。A+B

③〇〇さん、〇〇さんと〇〇さん〔お三人〕の職業紹介から、貴重な知識を勉強になり、

(、)

また個人認識も深めることができまして、感謝を申し上げます。

(た。感謝)

「勉強になる」ことは「将来のためになる、あるいは、本人のためになる経験をする」ことの意味を表す。下記の例⁶のように「Nガ＋勉強になる」、「Nハ＋勉強になる」とか「お

⁵ たとえば、II-1 のところの「成功する」は、「歓迎する・応援する」の他動詞と違って自動詞である。

⁶ 参考文献 12.13.14. から一例ずつ引用した。

かげで勉強になった」というような使い方をする。

ア. 旅に出て多くの人に会うのが一番勉強になる。

イ. 外国を旅行するのはいい勉強になる。

ウ. おかげでたいへんいい勉強になりました。

「勉強になる」の「なる」は自動詞であるので、「ヲ」はとらない。「ニ」も使わない。「ニ」と「ヲ」をとって、「Nニ/ヲ+勉強になる」という表現もまた台湾の中国語話者が使う日本語の間違いの共通した特徴の一つと言えよう。

なお、下記に示すように、「よく勉強になる」という表現は、「勉強になる」が用いられた例文 12 文の中で 8 例も見出された。助詞の間違いではないが、「よく」は「よい勉強になる」の「よい」の誤用である。

①〇〇先生の書道のご講演によく勉強になりました。A

(は)

②〇〇様のスピーチはたいへん面白くて、よく勉強になりました。B

③〇〇様の「日本国会政治」〔は〕、内容が豊富で、よく勉強になりました。C + A

④〇〇さんと〇〇さんの職業紹介はよく勉強になりました。D

II-4 自動詞「頑張る」使用時の誤用—「Nヲ/ニ」→「Nガ/、」

これは、自動詞「頑張る」を使用する時、間違えて格助詞の「ニ」、または「ヲ」と結び付けて用いた場合である。

次は誤用例である。

①競売活動の年間目標 20 万円に頑張りましょう。D

②来週の出席率 100 %に頑張りましょう。A

③〇〇先生のご講演を伺って大変勉強になりました。これからこの知識を臨床実験に頑

張ります。D

④100 %の出席目標に達成を頑張ります。D

(の)

⑤皆様は、100 %の出席率を頑張りましょう。D

(、)

⑥80%の出席率を頑張りましょう。C+D

⑦〇〇先生のお話はたいへん勉強になり、今年立法委員台北南区の選挙を頑張ってください。B

(なりました。今年の)

「頑張る」は自動詞で、三省堂の『例解新国語辞典（第三版）』の「頑張る」の項目には、次の三つの意味用法がある⁷。

1. 最後までいっしょうけんめい努力する。

〈文例〉ゴールまでがんばれ。

2. 自分の考えをゆずろうとしないで主張しつづける。

〈文例〉、そんなにがんばってつっぱらなくてもいいのに。

3. ある場所をうごかないでいる。

〈文例〉入口に大きな犬がががんばっている。

これらの文例を見てもわかるように、「頑張る」は自動詞であるので動作の主体を表そうとすれば「ガ」が用いられる。①～⑦の例では、「頑張る」の主体はともに話し手が聞き手で文面には出てきていない。しかし、①と②は、「年間目標20万円に頑張る」、「出席率100%に頑張る」とは言えないだろう。「二」を生かすならば、「年間目標20万円に達するように頑張る」、「出席率100%を目標に頑張る」とすべきである。③は、たとえば「これからこの知識を臨床実験に生かすように頑張ります」か「これからこの知識を生かして、臨床実

⁷ 参考文献 14、205 頁から引用した。

験で頑張ります」とすることができよう。

格助詞「ヲ」の主な用法は、「その動作・作用の及ぶ対象」を表す。しかし、前述したように「頑張る」は自動詞で、「ヲ」をとることは一般にあり得ない。したがって、④以降の、「Nヲ+頑張る」のようなパターンの使い方はしない。④は「出席目標の達成のため頑張る」、⑤は「皆様、100%の出席率を目標に頑張る」、⑥は「……の出席率をめざして頑張る」と添削したいところである。⑦はどうだろうか。「今年の選挙を頑張ってください」とは言えないこともないようである。よく、「今度の選挙を頑張ろう」とか「試験を頑張ろう」と言うが、この場合に限って「ヲ」を入れても違和感がない。一つの解釈として、話者が「頑張ってね」、「頑張ろう」のように「頑張る」の意味を強調すると、直接の目的語を要求するので他動詞化し「ヲ」を用いる場合があるという解釈も可能かもしれない。これについては今後の研究テーマとしたい。

II-5 「Nニ+参加する／感謝するなど」の誤用—「Nヲ」→「Nニ」

これは、「参加する」や「感謝する」などの述語は「Nニ」の部分に要求すべきところに、「Nヲ」を用いてしまった場合である。

次は誤用例である。

- ①10月12日のゴルフ同好会を初めて参加して、楽しかったです。D
- ②父と一緒に例会を参加できたのは嬉しいです。A
- ③〇〇さんと〇〇さんからのお祝いを心から感謝いたします。B
- ④先週の土曜日に〔は〕先輩の〇〇さんのご好意で、台湾ノーベル賞パーティーをご招待して、たいへん感謝しております。B
(いただき)
- ⑤久しぶりに皆様の顔をお会いできて本当に嬉しいことです。B
(皆様) (嬉しいです)

それぞれの述語について、関係する事態を表すために必ず必要となる「体言+格助詞」の部分は決まっている。たとえば、「参加する」の場合、「日本語研究会に参加する」「テニスの練習に参加する」などのように「Nニ」の部分が必要となる。①と②は、「ニ」をとるべきところに「ヲ」を用いたために生じた誤用である。③の述語「感謝する」の場合は、「お世話になったことを感謝する」のように他動詞としても用いられ「ヲ」をとることがあるが、一般には「人」に感謝するか、人の「ご恩」や「ご好意」に感謝するかにして、「Nニ」の部分が必要となる。したがって、③は、言い方を換えないならば「〇〇さんからのお祝い

を感謝する」のではなくて「〇〇さんからのお祝いに感謝する」となる。さらに「〇〇さんからお祝いをいただき感謝いたします」としたほうがより日本語らしい。④は、「パーティーに招待する」のように、移動する着点を表すのは「ニ」であるので、「パーティーを招待する」は誤用となる。⑤は、「会う」相手は「ニ」で示されるので、「皆様を会う」は誤りである。「皆様の顔を拝見する」と言えても、「皆様の顔に会う」という表現は、日本語ではない。これは、恐らく中国語の「很高兴跟大家见面」の表現で、中国語話者特有の表現であるように思われる。

II-6 形容詞文「Nガ/ハ+楽しい/嬉しいなど」の誤用—「Nニ/ヲ」→「Nガ/ハ」

これは、述語に「楽しい」や「嬉しい」などの形容詞を使用する時、「ニ」や「ヲ」を伴って用いてしまった場合である。

次は誤用例である。

①7-eleven⁸の店は1000店を達成したことに嬉しいです。B

②皆さんの元気な顔とクラブが益々盛んになった事に喜ばしい限りです。

(皆さん益々お元気で)

C

⁸注6を参照。

③友達の〇〇さんが京都からご来社を楽しかった。D

(京都の友達、〇〇さんがご来社され楽しかった)

「楽しい」や「嬉しい」などと、形容詞による状態述語の場合は、状態の主体を表す時は「ガ」、状態の対象を表す時は「ガ」か「ニ」を用いる。「ヲ」を伴って用いることはまずあり得ない。したがって、③の「・ご来社を楽しかった」は誤用である。

格助詞「ニ」には、確かに「皆はわたしに親切だ」や「彼女は数字に強い」などのように状態の対象を表す用法もある。しかし、①と②の場合、「……ことに嬉しい」、「……事に喜ばしい限りです」とは言わず、「……ことは嬉しい」、「……事は喜ばしい限りです」と言うのが普通である。「……ことに嬉しい／喜ばしい」は、中国語「對……事情感到高興」からの直訳に起因した間違いであるように思われる。

II-7 感動詞「おめでとう」「ありがとう」使用時の誤用—「Nニ／ヲ」→「N、」

これは、感動詞「おめでとう」「ありがとう」を動詞ととり違えて「ニ」や「ヲ」を伴って用いた場合である。

次は誤用例である。

- ①皆様に新年おめでとうございます。B
- ②〇〇さんのご回復におめでとうございます。B
- ③〇〇さん、25周年の結婚記念日におめでとう。D
- ④理事、監事当選の方々におめでとう [ございます]。B
- ⑤〇〇さんの株式上場及び〇〇さんの PROMOTION におめでとう。B
- ⑥〇〇教授のすばらしいスピーチにありがとうございます。B
- ⑦加盟式成功をおめでとうございます。D
- ⑧〇〇さん、25周年記念をおめでとうございます。B
- ⑨11名の理事と監事〔の方々〕をおめでとうございます。D

⑩○○先生の立派なご講演をありがとうございました。A

(○○先生、)

⑪○○さんと○○さんの職業の紹介をありがとう。B

(○○さんと○○さん、)

⑫○○主任のご来訪をありがとう [ございます]。B

(○○主任、)

⑬○○さんのご指導をありがとうございます。D

(○○さん、)

⑭○○先生、貴重なご講演をありがとう [ございます]。B

⑮○○さんのスピーチはたいへんありがとうございました。D

⑯○○さんの有意義なお話は本当にありがとうございます。⁹

「おめでとう」と「ありがとう」は感動詞¹⁰で、「誕生日、おめでとう。」「田中さん、ありがとう。」のように助詞を伴わずに用いられる。したがって、「Nニ/ヲ+おめでとう」や「Nニ/ヲ+ありがとう」の言い方をしない。もちろん、文例⑮と⑯のような「Nハ+ありがとう」の言い方もしない。したがって、これらの文例で下線箇所「ニ」、「ヲ」、「ハ」は取り除くべきである。文例を見てもわかるように、台湾の中国語話者は「おめでとう」と「ありがとう」を使用する場合、「Nニ/ヲ+おめでとう」、「Nニ/ヲ+ありがとう」などと、「ニ」や「ヲ」を伴って用いる傾向がある。その原因は中国語話者が「おめでとう」と「ありがとう」は感動詞であることを知らず、それらを動詞ととり違えて「ニ」や「ヲ」を伴って用いてしまったものであろう。しかし、II-1～II-6においてもそうであるが、なぜ決まって「ニ」と「ヲ」を用いたのか。中国語では、「謝謝」と「祝/恭喜」は動詞としても使われ「謝謝○○先生の演講」「○○先生、祝生日快樂」のように動作や状態の対象は動

⁹ この文はT組織のメンバーの一人である日本人が書いた文である。

¹⁰ 「ありがとう」と「おめでとう」は共に感動詞で、「ありがとうございます」と「おめでとうございます」はそれぞれの丁寧な言い方である。

詞のあとに続く。中国語の表現法から考えると、こうした間違いはやはり中国語の発想に起因すると見なければならない。

「ありがとう」の場合、次の文例を見てみよう。

ア. 先だってお花をありがとうございます。

イ. すばらしい思い出をありがとうございます。

作例ではあるが、アとイは言えるようである。これは「先だってお花をくださって／ただいてありがとう」、「すばらしい思い出を与えてくださって／与えていただいてありがとう」の意味として解することができるからである。したがって、「～をしてくださってありがとうございます」とか「～をしていただき、ありがとうございます」と解釈すれば、文例⑩～⑬のような言い方も許容できるかもしれない。このように考えると、「～のご講演をありがとうございます」のような表現は間違いとは言えない。しかし、どこか不自然である。⑩～⑬の場合は、たとい、「ヲ」を取り除いてもやはり不自然である。これは、恐らく構文論的な問題で、感謝の対象は対象物と行為者があり、この二つを区別しておくことは「ありがとう」を用いる構文に必要であり、「〇〇先生のご講演を……」や「〇〇さんのご指導を……」などのように行為者を対象物の連体修飾成分とすることが許容されないということによるものと思われる。つまり、⑩～⑬は、⑭の「〇〇先生、貴重なご講演をありがとうございます」のように、⑩'「〇〇先生、立派なご講演をありがとうございました」、⑪'「〇〇さんと〇〇さん、職業の紹介をありがとう」、⑫'「〇〇主任、ご来訪をありがとうございます」、⑬'「〇〇さん、ご指導をありがとうございます。」とするならば許容される。

Ⅲ. おわりに

以上のように、台湾における中国語話者の職業人による格助詞「ニ」と「ヲ」の誤りを七つの誤用類型に分けて考察した。その結果、Aグループ（日本商社などで仕事を通して

日本語を身につけた人)、Bグループ(日本で勉強した元留学生)、Cグループ(日本領台時代日本語を母語とした日本語に堪能な人)、Dグループ(A・B・Cのほかの方法で日本語を学んだ人)など、年齢や背景が異なっているにもかかわらず、全体を通して格助詞「ニ」と「ヲ」に関する間違いの共通した特徴や傾向が見出された。

前述した外国語である日本語を組織の公用語とするT組織のメンバーたちの使用する日本語では、A・B・C・Dを問わず、「100%の出席率を頑張りましょう」「〇〇さんに応援しましょう」「来週の加盟式成功にお祈りしましょう」「貴重な知識を勉強になりました」「理事、監事当選の方々におめでとうございます」「〇〇さんのスピーチをありがとう」などのように述語の性質のいかに構わずに格助詞「ニ」と「ヲ」を常に伴って用いる傾向があり、「ニ」と「ヲ」の誤用が特に目立つ。

この誤用の原因は、格助詞「ニ」と「ヲ」の意味用法を十分に習得しなかったためであろうが、中国語の発想の影響とは無関係ではないように思われる。T組織のような二言語併用の状態¹¹では、「言語干渉」¹²という現象を生じるのは自然である。「体言+格助詞」という成分と述語とのかかわり合いの中で、たとえばⅡ-1では「かなう(日)=實現(中)」、Ⅱ-2では「歓迎する=歡迎」、Ⅱ-3では「勉強になる=學到知識」、Ⅱ-4では「頑張る=堅持・加油」、Ⅱ-5では「参加する=參加」、「会う=見面」、Ⅱ-6では「嬉しい=高興・歡喜」、Ⅱ-7では「おめでとう=祝/恭喜」、「ありがとう=謝謝」など、述語を選択する時に、中国語の働きや意味が干渉するため、格助詞のとり方の間違いを引き起こしたとも考えられ

¹¹ 二言語併用(bilingualism)とは、今日バイリンガリズム、二重言語、二言語使用あるいは二国語使用など様々な名称で呼ばれている。二言語併用の定義については、様々な定義が出されているが、芳賀純によれば、ラルースの言語学辞典に「人が環境や場面に応じて二つの言語を交互に使用する言語的場面」という定義となり、また日本語教育においては日本以外の国々に滞在して、学習者がすでに習得した言語(母語を含めて)を維持しながら新たに日本語に熟達すればその学習者は二言語使用者となると説明されている。本稿に使われる誤用例はそうした二言語使用者が中国語と日本語による二言語併用の状態で犯す間違いである。(参考文献4、1~9頁を参照)

¹² 言語干渉(language interference)とは、二言語を切り換えて用いることにより一方の言語の発音や語句の意味が他方の言語の発音や語句の意味に影響を及ぼすということである。(参考文献4、8頁を参照)

る。

日本語を使用する立場では、日本語を使うに当たって格助詞、特に「ニ」と「ヲ」の意味用法に習熟し、中国語的発想を日本語的発想に切り換えなければ、正しくかつ自然な日本語的な表現を習熟するのは困難であろう。日本語を指導する立場では、誤用を指摘し、誤用を引き起こす言語干渉などの原因を分析し、それに基づいた指導法を用いることが望ましい。

〔付記〕本稿は杏林大学平成9年度プロジェクト研究の成果の一部である。

参 考 文 献

1. 久野暲『日本文法研究』、大修館書店、1973年。
2. 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法—改訂版』、くろしお出版、1992年。
3. 寺村秀夫他編『ケーススタディ・日本文法』、桜楓社、1987年。
4. 芳賀純『二言語併用の心理—言語心理学的研究』、朝倉書店、1979年。
5. 望月八十吉・高維先『中国語学習のポイント』、光生館、1970年。
6. 市川孝『新訂 文章表現法』、明治書院、1968年。
7. 阪倉篤義『改稿 日本文法の話』、教育出版、1974年。
8. 金田一春彦・池田弥三郎『学研国語大辞典』、学習研究社、1978年。
9. 松村明『日本文法大辞典』、明治書院、1971年。
10. 北原保雄他編『日本文法事典』、有精堂、1981年。
11. 新村出『広辞苑』第二版、岩波書店、1969年。
12. 金田一京助他編『新明解国語辞典』第4版、三省堂、1989年。
13. 阪田雪子・遠藤織枝『日本語を学ぶ人の辞典』、新潮社、1995年。
14. 林四郎他編『例解新国語辞典』第3版、三省堂、1990年。